南幌町長 大 崎 貞 二 様

南幌町監査委員 白 倉 敏 美
南幌町監査委員 加 藤 真 悟

令和5年度南幌町病院事業会計決算審査意見書

地方公営企業法（昭和27年法律第292号）第30条第2項の規定により、審査に付された令和5年度南幌町病院事業会計決算書について意見を次のとおり提出します。

記

1 審査の対象

令和5年度南幌町病院事業会計決算の事業報告書、事業決算書、財務諸表並びに決算書作成の基礎とする関係書類及び証拠書類などを対象にした。

- (1) 令和5年度南幌町病院事業決算報告書
- (2) 令和5年度南幌町病院事業損益計算書
- (3) 令和5年度南幌町病院事業貸借対照表
- (4) 令和5年度南幌町病院事業剰余金計算書
- (5) 令和5年度南幌町病院事業欠損金処理計算書
- (6) その他附属書類

2 審査の期間及び場所

- (1) 令和6年8月1日（1日間）
- (2) 町立南幌病院3階会議室

3 審査の手続き

町長より付された令和5年度南幌町病院事業会計の決算審査にあたって、南幌町監査基準に基づき、決算報告書、財務諸表及び附属書類が関係法令に基づき作成され、事業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているか検証するため、担当職員から内容を聞き取るとともに、会計帳票、証拠書類との照合を行い、予算の適正かつ効率的に執行、運営がなされたかを検証して審査を実施した。

なお、千円単位で記載したものは四捨五入のため内訳と合計が一致しない場合がある。

4 審査の内容

(1) 業務の概要について

①入院・外来患者数

延患者数は、入院患者が 13,450 人と予算 14,640 人を 1,190 人下回り、達成率 91.9%、前年比△1,182 人、8.1%の減となった。

外来患者は 15,851 人と予算 15,183 人を 668 人上回り、達成率 104.4%、前年比では 200 人、1.3%の増となった。

外来患者に含まれる訪問診療件数は延べ 593 人と前年度の 601 人に比べ△8 人、1.3%下回った。医療連携による受診、転院、検査を含めた紹介件数は 157 件と前年度の 73 件に比べ 84 件、115.1%の増加、他院からの転院依頼件数は 64 件と前年度の 81 件に比べ△17 件、21.0%の減少、受入実績は 64 件と、前年度の 71 件に比べ△7 件、9.9%減少した。

入院・外来患者数の合計は 29,301 人と予算延患者数 29,823 人に対し 522 人下回り、達成率 98.2%となった。

【表 1 患者数の動向】

(単位：人)

項目	令和 5 年度					令和 4 年度		
	予算	実績	達成率	前年度比		実績	前年度比	
				増減数	増減率			
入院	14,640	13,450	91.9%	△ 1,182	△ 8.1%	14,632	600	
外来	内科	12,444	13,113	105.4%	△ 125	△ 0.9%	13,238	1,697
	小児科	1,464	1,666	113.8%	198	13.5%	1,468	626
	眼科	1,275	1,072	84.1%	127	13.4%	945	△ 41
	小計	15,183	15,851	104.4%	200	1.3%	15,651	2,282
合計	29,823	29,301	98.2%	△ 982	△ 3.2%	30,283	2,882	
内科患者数	27,084	26,563	98.1%	△ 1,307	△ 4.7%	27,870	2,297	

※入院患者は全て内科の患者

②診療科別延患者数

診療科別に延患者数を見ると、入院、外来を合わせて内科は 26,563 人と予算比△521 人、達成率 98.1%、前年比△1,307 人、4.7%減少した。

小児科は 1,666 人となり、前年比 198 人、13.5%増加した。眼科は 1,072 人、前年比 127 人、13.4%増加した。

③ 医業利益（医業収支）の状況と医業収支比率

本年度の医業収支は△146,751千円と前年比では赤字幅が20,361千円増加した。

医業収益を医業費用で除した医業収支比率は、78.8%と2.9%低下した。医業収支比率は、医業に投下した費用を医業収益で収入した割合を示している。

医業費用は691,751千円と前年比548千円、0.1%増加し、医業収益が545,000千円と、前年比△19,813千円、3.5%減少したことから、医業収支比率の低下につながった。

【表2 医業収支の推移】

(単位:千円)

項目	令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度
	収支差	前年増減	収支差	前年増減	収支差	前年増減	収支差
医業収支	△146,751	赤字増加	△126,390	赤字減少	△187,782	赤字減少	△245,140
		△20,361		61,392		57,358	
医業収支比率	78.8%	△2.9%	81.7%	7.9%	73.8%	11.0%	62.8%

④ 年度別病床利用率の推移

町立南幌病院は令和2年8月に、一般病棟26床、療養病棟54床の合計80床から、一般病棟のみ60床へ病床数の削減と同年10月に病棟機能転換を行っており、一般病床の利用率は、本年度61.2%と前年度の66.8%を下回っている。

病床利用率は医業収入の増減と経営収支に大きく影響し、町立南幌病院の収益確保に重要なことから、地域医療連携室を中心に関係機関との医療連携強化を行うことで病床利用率を上げることが重要である。

【表3 年度別病床利用率の推移】

(単位: %、床)

区分	令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度	
	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比
利用率	61.2	△5.6	66.8	2.7	64.1	16.0	48.1	10.6
延病床数	21,960		21,900		21,900		24,340	

⑤ 診療単価について

本年度の一人1日当たりの診療報酬は入院で24,425円と前年比2,160円、9.7%の増加、外来で8,219円と前年比△1,657円、16.8%減少した。令和2年度の病棟機能転換以降、一人当たりの入院単価が上昇している。

外来では、新型コロナウイルス感染症に係る各種加算の縮小・廃止に伴い単価が減少した。

(2) 収益的収支について

【表4 比較収支計算書】

(単位：千円)

科 目		令和5年度					令和4年度 実 績
		予算現額	決算額	達成率	増減額	増減率	
医 業 収 益	入 院 収 益	315,360	328,515	104.2%	2,730	0.8%	325,785
	外 来 収 益	125,000	130,272	104.2%	△ 24,300	△ 15.7%	154,572
	その他医業収益	69,224	86,213	124.5%	1,757	2.1%	84,456
	合 計	509,584	545,000	106.9%	△ 19,813	△ 3.5%	564,813
医 業 費 用	給 与 費	429,191	414,926	96.7%	△ 4,916	△ 1.2%	419,842
	材 料 費	54,262	47,780	88.1%	3,771	8.6%	44,009
	経 費	185,844	173,490	93.4%	2,814	1.6%	170,676
	減価償却費	53,989	53,986	100.0%	△ 1,730	△ 3.1%	55,716
	資産減耗費	2,200	1,198	54.5%	968	420.9%	230
	研究研修費	1,500	371	24.7%	△ 359	△ 49.2%	730
	合 計	726,986	691,751	95.2%	548	0.1%	691,203
医業利益		△ 217,402	△ 146,751	67.5%	△ 20,361	△ 16.1%	△ 126,390
医 業 外 収 益	受取利息及び配当金	1	2	200.0%	△ 1	△ 33.3%	3
	患者外給食収益	1,280	827	64.6%	△ 25	△ 2.9%	852
	他会計負担金	37	37	100.0%	20	117.6%	17
	他会計繰入金	213,587	216,587	101.4%	829	0.4%	215,758
	その他医業外収益	6,088	7,892	129.6%	942	13.6%	6,950
	長期前受金戻入	19,253	19,658	102.1%	△ 569	△ 2.8%	20,227
	補 助 金	19,736	19,736	100.0%	19,736	皆増	0
	合 計	259,982	264,739	101.8%	20,932	8.6%	243,807
医 業 外 費 用	支払利息及び企業債取扱諸費	306	55	18.0%	30	120.0%	25
	患者外給食費用	1,306	828	63.4%	△ 39	△ 4.5%	867
	雑 損 失	3,055	2,954	96.7%	993	50.6%	1,961
	合 計	4,667	3,837	82.2%	984	34.5%	2,853
経 常 利 益		37,913	114,151	301.1%	△ 413	△ 0.4%	114,564
特 別 利 益		0	0	—	0	—	0
特 別 損 失		0	0	—	△ 103	皆減	103
当年度純利益		37,913	114,151	301.1%	△ 310	△ 0.3%	114,461

医業収益は545,000千円と予算現額509,584千円に対し35,416千円、達成率106.9%、前年比△19,813千円、3.5%の減収、うち入院収益は328,515千円と予算現額315,360千

円に対し 13,155 千円、達成率 104.2%、前年比 2,730 千円、0.8%増収した。

外来収益は 130,272 千円と予算現額 125,000 千円に対し 5,272 千円、達成率 104.2%、前年比△24,300 千円、15.7%減収し、医業収益の大部分を占める入院・外来収益は、予算現額 440,360 千円に対し 458,787 千円と 18,427 千円、達成率 104.2%、前年度実績 480,357 千円に比べ△21,570 千円、4.5%の減収となった。

その他医業収益は 86,213 千円と予算現額 69,224 千円に対し 16,989 千円、達成率 124.5%、前年比 1,757 千円、2.1%増加した。

一般会計からの繰入普通交付税(救急告示分)36,294 千円と特別交付税(小児救急医療提供病院)11,375 千円は前年と同額となった。

医業費用合計 691,751 千円は予算現額比△35,235 千円、達成率 95.2%、前年比 548 千円、0.1%増加している。

給与費は 414,926 千円と達成率 96.7%、前年比△4,916 千円、1.2%減少した。常勤医 3 名体制により、1 名分の医師給が減少したことによる。

材料費は 47,780 千円と達成率 88.1%、新型コロナウイルス感染症の 5 類感染症移行に伴い薬品費など前年比 3,771 千円、8.6%増加した。

経費は 173,490 千円と達成率 93.4%、光熱水費や燃料費の高騰により前年比 2,814 千円、1.6%増加した。

減価償却費は、53,986 千円と前年比△1,730 千円、3.1%減少、資産減耗費は資産の除去に 286 千円、使用期限切れ等による薬品類の棚卸資産除去費 912 千円の支出により 1,198 千円と前年比 968 千円、420.9%増加した。

この結果、医業利益は予算現額△217,402 千円に対し決算額△146,751 千円と予算比 70,651 千円、前年度の△126,390 千円に比べ△20,361 千円、16.1%低下している。

医業外収益 264,739 千円は予算現額に対し達成率 101.8%、前年比 8.6%の増加となっている。うち他会計繰入金 216,587 千円の内訳は、普通交付税(病床分)49,065 千円、特別交付税等 96,184 千円(不採算地区 84,268 千円、医師派遣分 1,408 千円、基礎年金拠出分 10,008 千円、経営強化プラン 500 千円)に加え、児童手当 1,820 千円、リハビリテーション医療に要する経費 8,757 千円、医師確保対策 27,761 千円、資金不足に伴う一般会計繰入金 30,000 千円、国民健康保険調整交付金 3,000 千円を一般会計経由で受入れ、前年比 829 千円、0.4%の増加となった。長期前受金戻入 19,658 千円は、過去に一般会計等から受入れた補助金を収益に振替え、減価償却費の財源となっているもので、前年比△569 千円、2.8%減少した。補助金は前年度計上がなかったため 19,736 千円の皆増となった。

医業外費用 3,837 千円は予算現額に対し△830 千円、達成率 82.2%、消費税納付分の増加により前年比 984 千円、34.5%増加した。

以上の結果、当該年度純利益は 114,151 千円、前年度の 114,461 千円と△310 千円、0.3%の減少となった。

(3) 資本的収支について

【表5 資本的収支の明細】

(単位：千円)

区 分		令和5年度			令和 4年度	令和 3年度
		決 算 額	前年度対比			
			増減額	増減率		
収 入	出 資 金	27,317	4,101	17.7%	23,216	21,748
	繰 入 金	3,000	2,260	305.4%	740	2,937
	企 業 債	11,200	1,700	17.9%	9,500	27,800
	補 助 金	0	0	—	0	935
	収 入 合 計	41,517	8,061	24.1%	33,456	53,420
支 出	建 設 改 良 費	14,332	3,920	37.6%	10,412	31,799
	企 業 債 償 還 金	40,974	6,150	17.7%	34,824	32,620
	支 出 合 計	55,306	10,070	22.3%	45,236	64,419
収支差		△ 13,789	△ 2,009	△17.1%	△ 11,780	△ 10,999

資本的支出では、財務会計システム 5,240 千円、医薬品在庫管理システム 1,592 千円、電動リモートコントロールベッド 1,263 千円、小荷物専用昇降機改修工事 4,400 千円及び非常用発電設備改修工事 1,837 千円の実施などの固定資産の取得に建設改良費として合計 14,332 千円及び企業債償還金 40,974 千円、合計 55,306 千円を支出している。

資本的収入は企業債発行 11,200 千円のほか、一般会計からの企業債償還元金相当額 27,317 千円を出資金として、更に国保会計からの経営合理化に要する経費として 3,000 千円を受入れ、合計 41,517 千円となった。

この結果、現金の出入りを伴う資本的収支差額は△13,789 千円となった。

これに当年度減価償却費 53,986 千円など現金支出の伴わない費用に対し損益勘定留保資金を充てている。

(4) 財務について

本年度病院事業会計の財務規模は 1,115,986 千円と前年比 94,404 千円、9.2%増加している。

①資産の部（運用）

資産勘定では、固定資産の正味残高は 541,445 千円と前年比△39,940 千円、6.9%減少した。

流動資産の 134,344 千円、30.5%の増加は、現金・預金が前年比 135,917 千円 38.1%と大幅に増加したため、これは、医業収益が安定していることが要因である。

【表6 比較貸借対照表（資産）】

(単位：千円)

区 分		令和5年度				令和4年度	
		決 算 額	構 成 比	前 年 度 対 比		決 算 額	構 成 比
				増減額	増減率		
固定資産	土 地	13,454	1.2%	0	0.0%	13,454	1.3%
	減価償却資産	1,979,530	177.4%	9,367	0.5%	1,970,163	192.9%
	減価償却累計額	△ 1,451,692	△ 130.1%	△ 49,307	△ 3.5%	△ 1,402,385	△ 137.3%
	減価償却資産小計	527,838	47.3%	△ 39,940	△ 7.0%	567,778	55.6%
	無形固定資産	153	0.0%	0	0.0%	153	0.0%
	固定資産計	541,445	48.5%	△ 39,940	△ 6.9%	581,385	56.9%
流動資産	現金・預金	493,016	44.2%	135,917	38.1%	357,099	35.0%
	未 収 金	79,388	7.1%	△ 2,143	△ 2.6%	81,531	8.0%
	貯 蔵 品	2,137	0.2%	570	36.4%	1,567	0.1%
	流動資産計	574,541	51.5%	134,344	30.5%	440,197	43.1%
資 産 合 計		1,115,986	100.0%	94,404	9.2%	1,021,582	100.0%

②有形固定資産の状況

本年度末の有形固定資産残高は土地を含め 1,992,985 千円と前年比 9,368 千円増加している。減価償却累計額 1,451,693 千円は前年比 49,308 千円の増加であり、年度末の減価償却資産に対する償却率は 72.8%となっている。

【表 7 有形固定資産の明細】

(単位：千円)

区 分	前年度末 残高	令和 5 年度				
		増加	減少	年度末 現在高	減価償却 累計額	年度末償 却未済高
土 地	13,454	0	0	13,454	0	13,454
建 物	1,596,530	6,237		1,602,767	1,172,347	430,420
構 築 物	66,940			66,940	63,593	3,347
器械・備品	304,101	8,095	4,964	307,232	214,591	92,641
車 両	2,592			2,592	1,162	1,430
合 計	1,983,617	14,332	4,964	1,992,985	1,451,693	541,292

③負債・資本の部（調達）

負債勘定では、固定負債で新規に病院整備事業債 11,200 千円を発行したが、翌年度償還分 40,079 千円を流動負債の部に振替えたため、28,879 千円減少した。

病院整備事業債は、前年度末残高 177,188 千円（固定負債 136,214 千円、流動負債 40,974 千円）に対して 11,200 千円を発行し 40,974 千円を償還したことから、本年度末残高は 147,414 千円（固定負債 107,335 千円、流動負債 40,079 千円）となった。

流動負債は、負債について決算日の翌日から起算して 1 年以内支払分を流動負債、1 年超支払分を固定負債に区分する 1 年会計基準により、令和 6 年度の償還予定額 40,079 千円を固定負債から振替え、企業債残高が 40,079 千円と 895 千円の減少、未払金が 39,639 千円と 1,611 千円の減少、職員手当に係る賞与引当金及び法定福利費引当金が 27,217 千円と 578 千円減少したことから 111,568 千円と前年比△1,527 千円、1.4%減少した。

繰延収益は固定資産取得に伴い、過去に受入れた一般会計等からの補助金 19,658 千円を長期前受金戻入に計上し減価償却費の財源に充て、新たに 3,000 千円の補助金を受け 156,512 千円と前年比△16,658 千円、9.6%減少した。

資本の部では繰入資本金が 1,124,566 千円と一般会計から 27,317 千円の繰入れにより増加したほかに異動はなく、当年度純利益が 114,151 千円となったことから当年度末未処分利益剰余金（累積欠損金）は△511,514 千円となり資本合計は 740,571 千円となった。

【表8 比較貸借対照表（調達）】

（単位：千円）

区 分		令和5年度末				令和4年度末		
		決算額	構成比	前年度対比		決算額	構成比	
				増減額	増減率			
負債の部	企業債	107,335	9.6%	△ 28,879	△ 21.2%	136,214	13.3%	
	固定負債合計	107,335	9.6%	△ 28,879	△ 21.2%	136,214	13.3%	
	流動負債	企業債	40,079	3.6%	△ 895	△ 2.2%	40,974	4.0%
		未払金	39,639	3.6%	△ 1,611	△ 3.9%	41,250	4.1%
		諸引当金	27,217	2.4%	△ 578	△ 2.1%	27,795	2.7%
		その他流動負債	4,633	0.4%	1,557	50.6%	3,076	0.3%
		流動負債計	111,568	10.0%	△ 1,527	△ 1.4%	113,095	11.1%
	繰延収益	長期前受金	615,621	55.2%	3,000	0.5%	612,621	60.0%
		長期前受金収益化累計額	△ 459,109	△ 41.1%	△ 19,658	△ 4.5%	△ 439,451	△ 43.0%
		繰延収益計	156,512	14.0%	△ 16,658	△ 9.6%	173,170	17.0%
	負債合計	375,415	33.6%	△ 47,064	△ 11.1%	422,479	41.4%	
	資本の部	資本金	固有資本金	35,033	3.1%	0	0.0%	35,033
再評価組入資本金			1,885	0.2%	0	0.0%	1,885	0.2%
繰入資本金			1,124,566	100.8%	27,317	2.5%	1,097,249	107.4%
組入資本金			90,601	8.1%	0	0.0%	90,601	8.8%
資本金計			1,252,085	112.2%	27,317	2.2%	1,224,768	119.8%
剰余金		繰越利益剰余金	△ 625,665	△ 56.1%	114,461	15.5%	△ 740,126	△ 72.4%
		当年度純利益	114,151	10.2%	△ 310	△ 0.3%	114,461	11.2%
		剰余金計	△ 511,514	△ 45.8%	114,151	18.2%	△ 625,665	△ 61.2%
資本合計		740,571	66.4%	141,468	23.6%	599,103	58.6%	
負債・資本の部合計	1,115,986	100.0%	94,404	9.2%	1,021,582	100.0%		

5 審査の結果

(1) 審査意見

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類に引き下げられたことに伴い、コロナ診療、外来診療において、国から手当されていた診療報酬加算がなくなり、外来収益が2,400万円ほど減収となった。このことについては、ある程度想定内であったのではないかと推察する。

新型コロナウイルス感染症が一応の収束を迎えた今、これからは、4年前に転換した地域包括ケア病床の価値が高まるのではないかと考えるが、南幌町は、南空知の町、石狩管内では、江別市や北広島市に隣接しており、地域包括ケア病床への転換により、これら周辺の市町から回復期でリハビリテーションを要する患者や長期入院する前の患者を受け入れることで、入院収益の確保に繋がり、町立病院の存在意義が生きてくるといえる。

地域包括ケア病床への転換は、国が推進する医療機関の機能分化という方針に沿っており、町立病院が、南空知、札幌圏に隣接する地域において、回復期病床という役割を担っていることになる。

また、「地域のみなさんを治し支え、その人らしい生活を支援する」という理念のもと、訪問診療に取り組んでいることも、在宅医療を推進する国の方針に則るもので、先進的な取り組みであり、南幌町が持続可能なまちであるために欠かすことのできない要素のひとつでもあると評価する。

結びに、町立病院の単年度剰余金が、昨年度に引き続き高い水準となったことに対して、院長をはじめ、職員の努力に感謝するとともに、今後も「治し支える医療」の推進に務め、地域医療の要たる公立病院としての役割を果たすよう取り組まれることを期待する。

(2) 審査意見の総括

令和5年度南幌町病院事業会計の決算報告書及び事業決算書並びに付属書類は関係諸帳表により検証した結果、それぞれ関係法令に基づいて作成され、その計数は適正に表示していると認められる。